

課題提供：京都市動物園

生き方の多様性は尊重されているか？

ー野生動物から学び、若者へメッセージを発信しようー

受講生・担当教員

■受講生

片岡 久美子(経済)、森永 康平(経済)、横矢 麻衣(経済)、森田 拓海(経営)、山下 桃佳(経営)、
吉岡 瑞葵(経営)、栗田 周祐(法)、阿部 葵彩(現代社会)、塩谷 響(現代社会)、
南里 裕樹(現代社会)、鰐淵 奈美(現代社会)、林 菜央(国際関係)、吉野 百香(国際関係)、
岸 晴香(外国語)、高橋 瑠伊(外国語)、玉垣 桃花(外国語)

■担当教員

松尾 智晶

活動目的・概要

京都市動物園様からの課題には3つの段階があります。まず第1段階「動物園からのメッセージを知る」では、本課題解決のキーワードとなる**多様性**を理解するための質疑応答会を自主的に実施しました。そこで、理解させるだけではなく動物・動物園に関心を持たせるアプローチが重要だと気づきました。

次に第2段階「大学生にとって動物園からのメッセージにはどのような価値があるのか、価値を見出し、表現する」では、大学生を対象とした「感情と行動の繋がり」「動物園およびSDGsに対する印象」に関するWebアンケート調査と、同世代で動物と親密に関わっている動物専門学校3校の学生にアンケートとインタビュー調査を行い、計659件もの回答を得ました。また本校教員や動植物園、水族館、動物愛護の専門家にもインタビューを依頼し、9件全てからご協力を頂きました。これらの調査を通して、京都市動物園様は動物福祉について学べる場であり、動物の大きさや動きを直接見て楽しめる場であることを再認識することができました。

最後に第3段階「大学生を対象とした発信」では、調査結果から大学生のユーザーが増加傾向にあるInstagramを用いて動物・動物園への関心を引くためのショートムービーを発信する案と、動物園からのメッセージを「動物おみくじ」という形で楽しく理解してもらう企画案を立案しました。以上について8月末に本課題提供者様にプレゼンテーションの機会を申し入れ、「面白い」とお褒めいただきました。課題解決案の実践については、現在も活動継続中です。



温暖学園COMグループ 学校法人コミュニケーションアート
大阪ECO動物海洋専門学校



京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art



◆主な活動

- 2021. 4. 22 ・ 課題説明
- 2021. 5. 8 ・ 第1段階に関する質疑応答会
- 2021. 5. 27 ・ 田中先生の講義①
- 2021. 6. 3 ・ 田中先生の講義②
- 2021. 6. 24 ・ 中間報告
- 2021. 8. 18 ・ 田中先生に活動成果プレゼン
- 2021. 9. 3 ・ 最終成果報告会

【アンケート実績】

- 2021. 7. 23-7. 31 ・ 大学生版 (618件回収)
- 2021. 7. 21-8. 2 ・ 動物専門学校版 (41件回収)

【インタビュー実績】

- 2021. 7. 19 ・ 本学生命科学部西田先生
 - 2021. 7. 21 ・ 大阪動植物海洋専門学校様
 - 2021. 7. 22 ・ 本学現代社会学部足立先生
 - 2021. 7. 24 ・ 大阪ECO動物海洋専門学校様
 - 2021. 7. 30 ・ 神戸動植物環境専門学校様
 - 2021. 8. 4 ・ 桂浜水族館様
 - 2021. 8. 5 ・ 認定NPO法人
アニマルライツセンター様
 - 2021. 8. 8 ・ 大牟田市動物園様
 - 2021. 8. 19 ・ 京都市美術館様
- (下線はメールでの実施)

活動の成果

第1段階

第2段階

関心

身近な動物や野生動物、動物園の「面白さ」を知り、自分の目で動物を見て、感じたいと思ってほしい

行動

若者（大学生）に動物園へ来てほしい

理解

様々な動物の生き方を自分なりに楽しみながら、観察し学んでほしい

発展

自分なりの新たな行動や関心につなげてほしい

⇒動物園が伝えたいメッセージは「動物園にいるさまざまな動物の本来の行動や習性を知ってほしい」ということです。

複雑な「生物多様性」を発信するよりは、**身近な問題**に焦点を置き、関心を集めるべき

生物多様性の知識がない人にも**考えさせるきっかけ**を

人と動物の多様な関係を生かした**価値**にしたい

価値を効果的に発信するには「**自己成長に繋げられる**」ことを示す必要がある

動物も、人間と同じく個性や感情があり、**同じ命**であるということを大学生に気づいてほしい

⇒私たち人間も動物園の動物も**限定された環境**のなかで生きている、**ということに気づき生きるための手がかりを得られる価値**が得られると考えました。

おなじいきもの、ちがういきがた。

発信案1. ショートムービー案

スクロールすると次々動画が再生されるInstagramのリール機能を使用し、動物・動物園に関心をもってもらうための動画を投稿します。

動画案①動物の豆知識紹介

・京都市動物園にいる動物に人の声を当てはめ、動物が自身の豆知識を紹介します。

動画案②京都市動物園にいる動物当てクイズ

・シルエットやズームアウトなどで京都市動物園にいる動物を表示し、何の動物か考えてもらうクイズを行います。

・アカウント名は「30秒でわかるどうぶつ図鑑」、プロフィールには私たちが活動を通じて考えたメッセージである「おなじいきもの、ちがういきがた」というロゴを使用します。

→動物に関するクイズなどの動画を発信するだけでなく、ロゴによって問題提起をすることで大学生が動物園にもっと興味を持ってくれるのではないかと考えました。



発信案2. おみくじ案

【おみくじを楽しむプロセス】

- ① QRコードを読み取り、運勢とぴったりの動物と今後の指針となる格言（例：キリン 首を長くして待つべし）を写真とともに掲載します。
- ② 動物がありのままの姿で暮らせるように工夫している京都市動物園様の取り組みを紹介します。
- ③ **問題提起**（上記の取り組みや動物園の動物を見ることで自分と動物とを比較し自分の生き方を考えさせることができます。）
- ④ おみくじの結果や問題提起に対する意見はSNSでツイート、シェアできます。→楽しみながら**参加型学習**を行うことができます。



活動を振り返って

阿部 普段接点のない企業や専門学校へのインタビューを通して、新たな視点を得ることができました。また、チームで活動していく中で人の価値観や考え方の違いを身をもって感じ、チーム活動の大変さと大切さを学びました。

片岡 チームメンバーとの意見交換や企業・団体の方へのインタビューなど、自分に無いものを持っている人との関わりを通して、考えたことを自分の中で噛み砕いた上で発言する力や説得力がつけました。

岸 今回の授業を通して、チームメンバーの顔色ばかりを伺うのではなく、自分自身の意見を持ち、相手に発信することの大切さを知ること、そしてその実践ができ、チーム活動に必要なスキルを身に付けることができました。

塩谷 活動を通して、他人の意見を聞くだけでなく自分の意見を持ち、伝えることの大切さに気づき、その後押しをしてくれる先生方やメンバーと活動することで発言する力や思考力が身に付きました。

高橋 チームとして動くことの難しさを痛感できました。クラスの力をうまく活用し、力を発揮できている場面もあれば、力を発揮できていない場面もありましたが、その経験からチームワークの難しさを知ることができました。

玉垣 相手の意見に賛成したり、意見の不一致から納得いくまで議論を重ね、課題を解決してきたことから、人と違う考えを持ち伝えることは、相手を否定しているのではないと気づき、活動前に比べ発言力が身に付きました。

南里 チーム活動だったので、自分の行動次第で他の人にも迷惑がかかるかもしれないプレッシャーはありましたが、自分がミスしてもクラスメイトがサポートしてくれたことで他の人と協力する大切さを学ぶことができました。

林 チームの一員として活動する楽しさや難しさを知ることができました。特に、最終成果報告会に向けた活動では意見が思うようにまとまらない時もありましたが、最後にはチームの仲間と心をつなげて活動できたと思います。

森田 半年間の活動を通じて、チームで動く際に自分から発言すること、相手の考えを聞くことの大切さを学ぶことができました。また、自分が苦手なこと、得意なことを見つける自己発見に繋がりました。

森永 チームとして活動し、経験することで未熟な自分をみつめることができたと同時に、自分の可能性を知りました。また、メンバーと共に活動することで一人では思いつかなかったアイデアを実現することができました。

山下 興味をとことん追求し多様な手段を用いて調べ、積極的に活動するメンバーに刺激をもらった期間でした。共に活動していく中で自分の意見を常に持つことの大切さや、議論を深める大切さを改めて感じました。

横矢 より良いものを作り上げるために、ディスカッションを重ね続けることや相手の立場になって考えることが重要だと感じました。個性溢れるメンバーと共に活動する中で、新しい視点が増え、自分が持っていた偏見に気づけました。

吉岡 違う学部の人と意見を交わし、自分の考えていることを伝える難しさ、様々な物事の捉え方など、学部の授業だけでは学べないことがたくさんありました。また、チーム活動に役立つスキルを身に付けることができました。

吉野 他人の考えを尊重すべきであって指摘する必要はないと考えていたが、チーム外の多くの人を説得しようとするなら、まずチーム全体が納得するものを作る必要があります。自分が納得できない点も指摘する重要性を学びました。

鰐淵 学部や考え方の異なるクラスメイトや、これまで関わることのなかった企業や学生の方と意見交換ができ、知見が広がりました。また、自分の意見を誰にでもわかりやすく伝えることの難しさや重要性を知ることができました。

課題提供者からのコメント

京都市動物園 生き物・学び・研究センター長 田中 正之

2年前に続いて2回目のPBLをお受けしました。前回との違いは、コロナ禍における制約です。前回は、京都市の人口の10%を占めながら、動物園の入園者層の中で特に割合の低い大学生の入園者を増やすには、という課題でした。その際に大学生の興味を引くにはSNS等で魅力的なコンテンツを提示し、いわゆる「バズる」仕掛けを作るという有効なアイデアが出ていました。しかし、今や「密を避ける」ことを求められる時代。安易な手段ではなく、動物園の意義を正しく理解してもらった上で学生たちが何を考えて出してくれるかを問いました。その結果、動物を飼うことの意義の理解、動物園で働きたいと思う若者へのインタビューなど、期待を超えるほど熱心に議論を重ね、取材をしてその成果を発表してくれたと思います。ご苦労様でした。

担当教員からのコメント

共通教育推進機構 准教授 松尾 智晶

今年度は田中先生から『抽象的かつ本質的な課題への挑戦』をご提案頂き『どこまで取り組めるか?』と私も挑戦の思いでした。皆さんは【動物園】の専門知識がなく純粋な興味関心でこの課題を選び、オンライン大学生生活2年目でコミュニケーションの難しさに直面しながらも、専門書を読み、SDGsを調べ、学内の先生方や学外の専門学校、動物園・水族館・美術館、NPO団体に果敢にインタビューして高等教育の醍醐味である深い探究型の学修を実践しました。特に最終成果報告会直前3週間の熱く真摯な協働経験は、皆さんの財産です。誇るべき成果の活動を、より佳い大学生活と将来のキャリアに活かしてください。

活動資料

発信案①ショートムービー案



発信案②おみくじ案



クラス活動風景

私達のクラスの強みは
行動力です。



Illustrated by
WANIBUCHI and YOKOYA
このプロジェクトを表現したイラストです。